

団 体 名	百合が丘囲碁クラブ
事 業 名 称	子供囲碁教室の充実
補 助 金 額	50,000円
現 場 確 認 日	令和元年8月9日(金)
出 席 委 員	岡本委員



#### 事業の概要

2000年の歴史を持つ「囲碁」というゲームの魅力は現在益々盛んになります。広い視点で物事を考える練習になり、世代や文化を超えたコミュニケーションツールになります。居場所の提供にとどまらず、コミュニケーションの場を提供することになり、子供たちの持っている無限の可能性を引出し見分を広め、健全な育成の一助をします。



#### 現場確認の内容

一色小学校にて開催された子供囲碁教室を見学しました。

当日は、学童の遠足があったことから1名のみ参加されていました。

パソコンを使った電子での囲碁や紙の上で行う囲碁、碁盤を使う囲碁など、様々な媒体を使った囲碁を行っていました。

囲碁の教科書なども使い、子供に考えさせる工夫なども見られました。

#### 出席委員のコメント

- ・5日間開催された最終日に現場確認をしました。5日間を通して小学校1年生から6年生、そして昨年から続いて参加している中学生、合わせて十数名の参加が確認できました。実力差の違う現場となっていました。
- ・当日参加していた小学校低学年の男の子は初めにパソコンの囲碁ゲームを始めていました。囲碁のルールは既に理解をしていましたが、囲碁のルールは難しいものだと思います。
- ・その後、黒板や囲碁盤を使った囲碁を楽しんでいました。
- ・囲碁は難しいゲームですが、楽しみながらすることで、耐える、考える、判断をする、集中力が育つと言われていることが理解できました。
- ・囲碁教室は、女の子にも人気で春と夏に開催されているそうです。
- ・子どもたちが各自のペースで、次の一步へ進められる場づくり、また、囲碁のじっくり考えるという素晴らしいゲーム性が、二宮町の他校区の子どもたちにも広まっていくことを期待しています。

団 体 名	子ども学習支援「こむ」
事 業 名 称	子ども学習支援
補 助 金 額	50,000円
現 場 確 認 日	令和元年9月7日（土）
出 席 委 員	齋藤委員、豊田委員



#### 事業の概要

(1)生活困窮家庭、ひとり親家庭の子どもと保護者(2)外国につながる子どもと保護者などの子どもの学習支援を行い、保護者の相談に応じ、また多方面の支援先との連携を図り協働することによって次世代の育ちを支援し、地域社会の発展に寄与する。



#### 現場確認の内容

当日はボランティア5名、子どもの参加者4名が参加をしていました。

ボランティアの方が担当制で、各科目を教えていて、一定の時間で次の教科を勉強するという流れで活動が行われていました。

交付した補助金で教科書を購入し、それを子どもたちが使用し、勉強をしていました。

参加している子どもたちは非常に活発で賑やかな雰囲気でした。

#### 出席委員のコメント

- ・現在の支援対象者は7名で当日の参加者は3名でした。
- ・外国籍、不登校、発達障害、経済的事情を抱えた子どもたちは学校や民生委員と連携して把握、紹介をされているとのことでした。
- ・特別支援学級に入れる判断等を考慮すると、実際の支援対象の子どもたちの把握が困難だと思いました。
- ・支援内容は個々のレベルが異なるのでボランティアが一对一で対応していました。
- ・外国籍の小学生に算数の引き算を説明し、別の子どもには時計を模した手作り教材を用いて時計の読み方を教えていました。
- ・数学があまり好きではないという子もいましたが、みんな意欲的に学習に取り組んでいる様子でした。
- ・学習支援を通して、「頑張れば分かる」という自信や安心、高校進学目標などを子どもたちが持てるようになることは、学校生活を送る上で一つのよりどころに繋がると思います。
- ・教職の経験や専門性を有する会員などが活動に携わり、関係機関・団体との連携の強化拡大を図りながら、子どもの人格にも配慮した支援を行っていることを心強く感じます。
- ・支援対象者の増加に対応するためにも、ボランティア人材と活動資金の充実に地域の人々や行政などからの支援・協力が集まることを願っています。

団 体 名	ラビッツクラブ湘南二宮
事 業 名 称	二宮町総合型地域スポーツクラブ
補 助 金 額	200,000円
現 場 確 認 日	令和元年9月7日（土）
出 席 委 員	伊達委員



#### 事業の概要

あらゆる年代の町民が世代や年齢を超えて、運動や文化的活動に親しむことのできる環境や地域交流のできる場づくりを整備し、町民がイキイキと暮らし健康寿命の維持・延伸を目指す。



#### 現場確認の内容

17時から行われた初心者フットサルの活動現場を確認しました。

参加している子どもたちの保護者にも声をかけ、一緒に参加してもらい参加者を拡大させる工夫が見られました。

フットサルだけではなく、ボールを投げたり、転がしたりするゲームも行っていました。

補助金で購入されたフットサル用のゴールや作成したチラシを確認しました。

#### 出席委員のコメント

- ・当日は3歳からの未就学児童5名を含む20名の子どもたちと13名の保護者、指導する大学生やクラブ出身の青年など6名のサポーターが集まり、体育館は大変賑やかな状況でした。
- ・年少組は保護者と共にボールに親しんだ後フットサルを楽しんでいて、ぶつかったり転んだり、元気で真剣な姿を見ることができました。高学年組では二手に分かれての練習試合が行われ、技術的にも目を見張らせるシーンもありました。
- ・ある保護者は、「集団行動に子どもたちが慣れることで、日常生活に良い影響を与えてくれる」と語っていましたが、その言葉通り、初対面時の子どもたちの挨拶もしっかりし、好感を与えられました。「土曜日にお父さんと一緒に過ごす時間ができたことや、送り迎えには近所の保護者同士で都合を付け合うなど、交流が深まったのも成果」などとも話してくれました。
- ・主催者としては、実施回数を増やし多くの子どもたちに、スポーツの楽しさと、お友だちとの交流を深めてもらいたいと考えていて、参加者は増えているとのことでした。

団 体 名	東大跡パラスポーツの会
事 業 名 称	平成31年度組織強化活動の発展拡大
補 助 金 額	185,600円
現 場 確 認 日	令和元年10月2日(水)
出 席 委 員	山岡委員



#### 事業の概要

- ①一般町民及び障がい者のパラスポーツボランティアに対する関心と理解を広めるために「寺子屋」の内容を一層充実し、ボランティア数と奉仕活動の増加を図る。
- ②小学校との交流活動、スポーツ種目の拡大、指導の充実を促進する。



#### 現場確認の内容

- 東大果樹園跡地で開催されたスポーツレクリエーションの活動現場確認をしました。
- 当日は補助金で購入された物品の確認、会としての現況をお聞きしました。
- 種目を複数用意していて参加者がやりたい競技を選択できるように工夫していました。

#### 出席委員のコメント

- ・10月としては暑い日でしたが、参加者・ボランティアを含め約20名が集まり、フライングディスクやソフトボール投げ、やり投げ等の協議に取り組んでいました。
- ・参加者の障がいの種類や程度は様々であると聞きました。
- ・代表者によると近所の施設等と連携をして参加者を集めているとのことでした。
- ・今年度の補助金は主に寺子屋(ボランティアの新規募集及び研修)の運営に活用されていますが、なかなか新規ボランティアの参加にはつながらず、現状のボランティアの研修参加も減ってきているとのことでした。
- ・新たに参加されてもやめていく方がいるようで障がい者との関わりに難しさを感じて続けられないケースが多いようです。
- ・寺子屋はまだ始まったばかりなので、今後参加者募集等に工夫され少しでも参加者がふえることを願います。

団 体 名	まちづくり工房「しお風」
事 業 名 称	二宮の求心力アップ！吾妻山、旧山川方夫邸、東大二宮果樹園跡地等をつなぐ「まちなか♥遊学文化づくり」PR
補 助 金 額	200,000円
現 場 確 認 日	令和元年11月23日（土）
出 席 委 員	手塚委員長、高橋委員



#### 事業の概要

昔から培われてきた二宮の生活文化やアカデミックな風土を失うことなく、住民が地域の光を掘り起こし、「二宮の魅力伝える力」を育み、二宮の魅力（地域の光）をまちなかで楽しく見える形にして文化として感じる場づくりを行い、来町者が地元の人たちとふれあい、二宮を愛する人（ファン）を増やし、二宮の求心力を増す。



#### 現場確認の内容

walkwalk 地域体験ツアー 湘南の残したい資産 湘南みかんのある暮らしの見学をしました。

二宮駅北口を出発し、湘南軽便鉄道本社跡や吉田屋を見学したあと、東大果樹園跡地の建物の説明を聞いたり見学をしたりしました。

各観光スポットの歴史や現在の状況などを説明しながら歩き、二宮町の資産や歴史を情報発信するツアーとなっていました。

#### 出席委員のコメント

- ・ 風が強く木枯らしが吹いているような日でしたが、二宮駅前に想像していた以上の人数が集まっていた。
- ・ 参加者は、幼児から高齢者まで幅広く、市外の方が多いように感じた。二宮の良さを知る機会になっている。
- ・ 参加者のほとんどが町外の人ようで、二宮のファンを作ってくれているのだと感じました。
- ・ 配布された資料も充実しており、二宮の魅力を発見し町内外に発信している活動だと思いました。
- ・ 雨上がりのため、ぬかるんでいた場所もあったが、参加者の足元の注意や、一度に見学できる人数を制限するなど、安全面での配慮が見られた。
- ・ 活動そのものは、参加者の興味を引くよう、身近な説明が随所であり、道すがらのおしゃべりも楽しく、歩いた距離ほどの疲れは感じなかった。
- ・ 今までに何度も来ている場所であるのに、知らなかったことに気づき、新たな発見をさせてもらいました。
- ・ 説明者は2名。慣れた様子で説明をしているが、市街地での説明は民有地に入る形になることと、撮影をしている人もいるため、権利関係の調整が大変なのではないかと感じた。
- ・ 東大果樹園跡地については、二宮町も調整や協議の一翼を担っているように感じた。今後の利活用に期待したい。